

2014年8月30日(土) 第4回「聖書で読み解く映画カフェ」上映作品

「ファイアー・ストーム FIREPROOF 2008年製作 118分」の見どころ

【上映前】

●うちの教会でも2年前「結婚セミナー」で上映。今また感涙。

●《クイズ》

①邦題・原題に共通する「ファイア(火・炎)」が出てくるセリフは？

邦題は、過去にヒットした消防士の映画「ファイアー・ストーム」(火事場風)に引っかけた。(これで少しは知名度に訴え、この純キリスト教映画の収益を少しでも上げたいという悲しい工夫)

・原題は「ファイアー・プルーフ」(防火性の、耐火性の、不燃性の。⇒非難を受ける心配のない。安全な。)ケイレブが、外ではこの仕事に命を懸けていい働きをしながら、家庭では、怒りと争いの炎を消火できない現実。

②この映画に出てくる聖句。皆さんの心に浮かんだ聖句は？

③前作「フェイスング・ザ・ジャイアント」で監督・主演したアレックス・ケンドリックが、どこかにカメオ出演。当ててみて。

●アメリカ、ジョージア州シャーウッド・バプテスト教会のメディア担当副牧師、アレックス・ケンドリックが、神様から与えられたドラマ制作のたまものを十二分に発揮し、前作の「フェイスング・ザ・ジャイアント」から2年後の2008年に、再び監督・製作・脚本を手掛けて完成させた作品。今度は消防士が主人公で、仕事では危険と隣り合わせの火災現場でらつ腕を振るう主人公が、一方、私生活では冷え切った夫婦関係に悩み、かつての夫婦愛を取り戻そうともがく姿を描いたヒューマン・ドラマ。真に人を生かす愛を回復するカギは聖書の愛の実践にしかないことを感動的に語りかけてくる。

●映画は、アメリカ公開第1週で、全米ベスト10に入る。日本はビデオスルーで本とセット。ビデオは全米売上130億円。第4位。本は300万部。世界17か国語に翻訳。全米でこのセットを教材に1,000を超える結婚セミナー開催。

ストーリー

どんな困難な状況でも人命救助を諦めないケイレブ・ホルトは、仲間から信頼を寄せられる勇敢な消防士。しかし、病院の広報係として共働きの妻キャサリンとの結婚生活はうまくいかず、離婚の危機を迎えていた。そんな2人の状況を見かねたケイレブの父親は、離婚を40日延ばすことを提案し、「決断する愛(愛の挑戦) The Love Dare(直訳:あえて愛する愛=意志の愛)」と書かれた1冊のノートを渡す。そこに書かれた「愛の回復」のための行動を、毎日1つずつ実践しろというのだ。それは、父が離婚の危機にあったとき、妻に対して行った愛の実践を記録したもの。(最後に明らかになるが、実はその逆で、母が父に対して行ったこと。)しぶしぶ指示に従ったものの、全く反応を示さない妻キャサリン。実は彼女は彼から心が離れ、同じ病院で働く医師に好意を抱くようになっていたのだ。次第にいらだちと諦めに捉われ始めたケイレブだったが…。

スタッフ・キャスト

スタッフ:

監督・製作・脚本アレックス・ケンドリック

製作・脚本スティーブン・ケンドリック(アレックスの兄、同教会副牧師)

製作： ケンドリック・ブラザーズ・プロダクション他

撮影ボブ・スコット

字幕翻訳： 小寺陽子

キャスト：

ケイレブ： カーク・キャメロン(TV「愉快的シーバー一家」長男マイク)

キャサリン： エリン・ベシア(「フェイスング・ザ・ジャイアント」)

マイケル： ケン・バーヴェル

・プロは主役のカーク・キャメロンとカメラマンのみ。あとは監督アレックスの教会員で
ずぶの素人の方々。その演技力、ストーリー性には驚くばかり。

【上映後】

祝された結婚生活を妨げるもの=「罪」！

- ・すっかり冷え切った夫婦。夫が帰っても「ただいま」も言わない。
- ・互いに共稼ぎで、自分の預金口座を持ち、夫はモーターボートを買うために貯金。
妻はいろいろ家の必要品や修理をしたいのに不満。
- ・言葉の端々に怒りと不満がこもり、爆発。ロゲンカ・争いが絶えない。
 - ・ついに「もう限界」と離婚話。怒りの収まらないケイレブ。
- ①自己中心：
 - ・SIN: S極とN極、つまり世界の中心にI私がいる！
 - ・「夫婦だから、当然わかってくれるはず」⇒「ちっとも〇〇してくれない」(不平不満)
 - ・夫「職場では尊敬されているのに、家では尊敬を払ってくれない。」
 - ・妻「私のことを少しも分かってくれない。」
 - ・人の話をちっとも聞いてくれない。
 - ・これを名づけて； ×スカーレット・シンドローム(くれない(紅)症候群)！

②自己満足： ・やることはやっているというぬぼれ：

夫「家と車のローンを払い、やるべきことをやってきた。何が不満だ？」

妻「私が欲しいのは金銭じゃない。私のことをもっと理解してほしい。」

③自己正当化：

・自分は悪くない。悪いのは相手だ。(こう思っている限り、絶対に相手の話を聞こうとはしない。)これを妻にも父にも親友のマイケルにも。“聴く耳を持たない”。傲慢。

40日間の“決断する愛”の実践

●「40日」：

・キリストの荒野の40日⇒サタンに勝利。

・イスラエルの民の荒野の40年⇒約束の“乳と蜜の流れる地”へ。

・ノアの大洪水の際の40日の大雨⇒二度と洪水で滅ぼさないという神の約束と契約の虹。

・モーセがシナイの山中にいた40日間⇒全人類の最高の規範である十戒の授与。

①それは困難と忍耐の象徴のような数字。

②それは必ず最後に成就するという希望の数字。

③それは聖霊によって取り扱われる期間を示す完全数。

・40は完全数28+完全数6+完全数6というように、3つの完全数の合計。

ここで3は、三位一体の神の「第3位格」である聖霊の「3」。

【その内容：】

①(1日目。以下同じ)妻に一日、悪い言葉をかけない。

字幕(ヤコブ 1:19)「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。」

②少なくとも1つ、感謝を示す行動を取れ。

- ③何かを買って愛情を示せ。⇒安いバラとチョコを！
- ④何かやってほしいことがないか聞く⇒職場に電話。
- ⑬彼女のために祈る。(パス)
- ⑭彼女の話聞く。
- ⑮彼女を研究・勉強する。(生涯！)⇒ディナーを用意し、いろいろ聞く。⇒無視される。
- ⑯寄生虫に注意：賭け事、麻薬、ポルノ。結婚を破滅に導くもの。⇒PCを叩き壊す。

教えられること

×①【プライド(自尊心)】①男性ケイレブ：男性のプライドは、何が何でも自分の意志を通そうとする“頑固さ”と、それが崩れそうになるときの必死の“取り繕い”に表れる。

・始めは“義務感”からいやいやながら事務的に。相手が感謝しないと「人がせっかく…」と怒る。だが妻には本心が伴っていないのが分かる。(女性の直感！)だから固い殻は破れない。自分の努力が全く通用しないことに、ケイレブはいらだつ。全部を投げ出そうとする。

②女性キャサリン；女性のプライドは、“心のかたくなさ”に表れる。

・夫の変化と愛の行動に、内心は動いていたが、どうしても赦せない。

・⑮のディナー用意に「愛してない」と冷たく言い、独り寝室で泣く。

・夫の火傷にも、わざと冷たくする。(この時の彼の少女救出の時のプロとしての判断力、行動力、勇気は見事。その治療の時、「腫れが引くまで指輪はするな」と言う医師に、これは外したくないと。)

⇒プライドは、真の和解を妨げる最大の障壁。人間の傲慢の罪。夫婦の間に大切なものは、自分を取り繕わず、プライドを捨て、いつもありのままであること。

○②【尊敬】(1)「その優しさは離婚時の財産確保のためだろう。尊敬されないと怒る

が、家でポルノサイトを見ている人間を尊敬できるわけがない。」と言われまた怒る。

⇒尊敬は、求めて得られるものではない。尊敬に値する人間であることを、言葉と行いで示さなければならない。

(2)妻も脳卒中で口のきけない母に、「彼は”おまえでは不足だ”という目で私を見る。私を心で見下しているのに、自分で気づいていないのがたまらない」と。彼は妻に尊敬を求めて、自分では尊敬していない。

⇒一方向的な尊敬ではダメ。”互いに”尊敬し合うことが大切。

×③【姦淫の罪】それは一夫一婦という神の定められた契約を犯す罪であり、相手の誠実さへの裏切り。

・夫ケイレブ：ポルノサイトを見る。妻と性交渉のない彼の性欲のはげ口。

・妻キャサリン：伴侶以外の異性への愛：優しさと愛に飢えていた時の心の隙間。彼女の話聞き、理解してくれる医師のギャヴィン・ケラーに愛情を。(彼は既婚者であることを指輪を外して隠している卑劣漢。)

○④【気づき】人生における気づきの大切さ：

・父に怒りの電話をかけると、「大切なのは感情ではなく決意だ」と諭され、彼はやっと気づく。

彼が気づいたことは⇒

①妻の気持を変えるのではなく、自分自身が「変わる」必要がある。

②そのためには、自分の肉の努力は一切無駄。自分には主イエスが必要だ。

・人は、自力脱出のためにあがいて、自分自身に絶望して、最後の最後に、このことに気づく(人間の最大の気づき！)。だが、気づきに遅すぎることはない。こうして、諦めの淵にいた彼の心に光が差しこみ、悔い改めに必要な実を結ばせていく。

・人は気づいて初めて行動に移れるのだ。

・回心したケイレブは、火災現場で残された女の子を助けようとして、初めて「神よ、助

けてください！」と祈る。

・ポルノのもとであるPCを壊し、高価なバラとメッセージを置き、「今度こそ」と期待するケイレブが見たのは「離婚届」。泣きだすケイレブ。この現実の厳しさ。

○⑤【自制心と義務の履行】それでも彼は諦めず、神に全てを任せ、十字架の前に祈り、「愛のノート」に従って、家の掃除をし、皿洗いをし、部下の訓練と消火活動の仕事をこなす。

・苦しい中でも自暴自棄にならず、やるべきことを淡々とこなすこの日常性が大切。この最も苦しい数日間の間にも、神は大いなる祝福への道を備えておられた。⇒“和解の時”！

・妻が発熱して仕事を休んだ時、彼も休んで看病。「40 日間は終わり 43 日目だが、やめたくない。パートナーとは離れない。特に“炎の中”では。」と妻に言う。(⇒クイズ①の答え(1))

・そして、7 年間の自分中心と、彼女を踏みにじってきたことを心からわびる。(私も涙。)

・「罪は醜い。しかし悔い改めた罪ほど美しいものはない。」

和解と祝福への道

・夫の変化と、謝罪に心を動かされながら、まだ信じ切れていなかった彼女が本当に夫の愛を信じたのは、彼が自分のボート用の預金で、彼女の母のための車椅子一式 24,000ドルを購入し、彼女にひと言も言わなかったことを知った時。

・泣き崩れながら、夫の職場に和解に。「赦しました。あなたを愛しています。あなたと一緒に年を取りたい。私も変わりたい」と。抱擁。

・見ていたマイケルは同僚に「ケイレブが”火”をつけた」と。⇒(クイズ①の答え(2))

・そして二人で、彼を変えた森の十字架のもとに。

・電話でそれを聞き喜ぶ両親。彼を訪問し、父と息子は森の散歩。「愛の挑戦」で変えられたという息子に、「あれは神の道具で、変えたのは神ご自身だ」と父。

・続けて父の告白。「あのノートのもととは母さんだ。離婚を考えていた私に、妻がしてくれたこと。彼女は私を無条件に愛してくれた。」と。(母が父にした愛の実践を、息子が妻にした。)⇒ケイレブの母への謝罪。

・最後は、神の前に、共にキリスト者として再結婚式！

・司式のストラウス牧師は、監督アレックス・ケンドリック自身「フェイスング・ザ・ジャイアントの主人公⇒(クイズ③の答え)

・字幕：創世記 2:24、ローマ 5:8

・デコレーションケーキのトップには、あの塩と胡椒の瓶が！

祝された結婚への処方箋

・愛は忍耐：「いつまでも君を待つ。」

・愛は思いやり：互いに相手の立場に立って。

・愛は尊敬：互いに尊敬し合う。尊敬されるにふさわしい言動。

・愛は傾聴：男女の違いを認めて、理解するための話し合い。

・愛は謝罪：心からの「悪かった」と。

・愛は行いと真実：ことばや口先では相手の心に届かない。

・愛は犠牲：喜んで犠牲を払う。

よき助け人たち

●ケイレブの父：妻シェリルとの離婚の危機を、「決断の愛」の 40 日間の実践で克服。

・愛する息子ケイレブのために、40 日間の実行ノートを、全て手書きで書いてあげ

る。

・ケイレブに「神はいつでもお前のそばにいる。お前が拒んでいるだけだ。」

・妻と共に、息子のために祈る。18 日目のディナーの拒否で怒りを超えて絶望する息子に、片道 4 時間かけて会いに行く。

・「中頃が一番苦しい。“本当の覚悟”が必要になるから。」とアドバイス。⇒自分への自信が崩壊する。

・「毎日の勧めの最後の聖句は読まない。信仰的支えは必要ない」という息子に、「イエスは支えどころか我々夫婦の宝だ」と。

・神の基準を破ることが「罪」： 真実・愛・忠実さ…。

創造者を愛したか？ 人を憎むことは”殺人罪”。情欲は“姦淫罪”。

・ケイレブ「拒絶され続けて愛を伝えられるか？」

父「できないのは本当の愛がないから。私は“見返りを求めない”と決めて初めて妻を愛せた。キリストは、お前が拒み続けても、無償の愛を示し続けておられる。お前には神の赦しが必要なのだ。この方に委ねるか？」

●ケイレブの母： 彼女の愛が父を変えたとも知らず、ケイレブが長い間誤解していたのは、彼を心から愛するゆえの母の細かな注意だった。愛する者が真に信仰に立ち返るためなら、母は恨まれ、疎まれることをいとわない。そこに身を痛めて我が子を産んだ母の本当の強さがあるのでは？

●黒人副隊長マイケル：

・信仰深く、まず間一髪、列車にひかれるところを助かったことを主に感謝。

・妻ティナと愛し合っている。(心配かけるので「妻には言うな」と。⇒相手への思いやり。)

・天国へ行けるので、死の恐怖なし。

・ケイレブのよき相談相手：

・「女性はバラと同じ。きれいに咲かせるには正しく扱わないと。」

・「離婚して平和を取り戻す」と言うケイレブに、「それは本当の平和か？」と。

・結婚指輪は「苦しいときにも離れない」という夫婦の“契約”のしるし。塩と胡椒(全く性質の違うものだが、いつも一緒に使われる)を接着剤でくっつけて、「富めるときも貧しきときも」「病めるときも健やかな時も」共にいる。

・ケイレブ「だが結婚は完全防火 Fireproof じゃない。時にはやけどする。」

⇒(クイズ①の答え(3))

・マイケル「だが、火事になっても長続きする。くっつけた瓶(結婚)を離すな。ムリすると2 つとも壊れる。」

・回心したことをマイケルに打ち明け、「今まではイヤイヤやっていた」というケイレブに、「女性は見破るからな」と。(女性の鋭い勘！)

・彼もティナの前に、たった 1 年間の破れた結婚の経験者。結婚は契約だ。神に祈り、いい夫になれば、一時の感情にだまされるな。感情を自分で導け。

●医局員の年配女性アナ：「人生の分岐点にいる」と言うキャサリンに、離婚の決断は慎重に、と諭す。(同伴者がいても食前の祈りをきちんと。)

ユーモア精神：

①夫と妻が、互いに「相手は今頃」と想像したとおりに相互に愚痴や慰めを言う面白さ。

②部下の自慢男ウェインのトイレの一人芝居。

③ウェインとケイレブのからしジュース飲み競争。

④それに気づいて(しかも種明かしされて数時間後に)怒りまくるウェイン。

⑤ケイレブが怒って庭で何かを破壊する度に隣家のルドルフが見ている。最初の 2 度はごみ缶。3 度目の PC は奥さんも。「アルマ、やつと関わるな。まともじゃない」妻

